

山家 真田丸

山家郷塾理念

一、自然の恵みと祖先の恩に感謝し、日々お蔭さまの心を以て郷生の道を歩むこと

一、地域の歴史・文化・伝統を学び考へ今を照らし、故郷の振興と再生を図ること

一、永遠と続く歴史の中にある今を意欲し、祖先から受け継いだモノを守り伝えること

白山大権現

大河ドラマ『真田丸』屋敷白山大権現の掛軸は、真田郷の山家神社御神号である。

延喜式神名帳にその名が見える山家神社は四阿山頂上に奥宮が鎮座する。養老二年開山と伝わり加賀白山の御神霊を勧請したと云われる。

この奥宮は永禄五年幸隆公信綱公により修営され、昌幸公は御山の樹木伐採を制限する朱印状などを出している。

この神鎮まる山から流れ出る川は真田町上田市東御市地域に暮らす人々の生命の根源を司る川であり神の川、神川(かんがわ)と呼ばれる。

霊験あらたかな山家神社にはより神威を高めるため、神を護る寺、白山寺が建立され、山中の蓮花童子院と共に、神主、僧侶、修験者により祭祀が行われ続けてきた。

領主領民共に、四阿山から見晴かす土地に守り護られてきた、その尊称が真田の白山さま『白山大権現』である。

上田城鬼門除の神



真田氏は信濃國小県郡真田の地より、各一族及び領民が力を合わせ日の本に名を馳せた武将であります。この地に古くから鎮まる山家神社(山家社白山宮)を、真田氏は守護神として人々の暮らしと領土の安穩を祈り続けました。上田城築城に当たり、昌幸公は城の鬼門除けの神として変わらぬ山家神社を崇敬し、その後の上田藩主である仙石氏松平氏へも引き継がれていきます。



↑一七二二年上田藩主 松平忠周公奉納
↓一五六二年真田幸綱 信綱修営奥宮古扉



その大いなる恵みは白山大権現見晴かす四阿山より流れ出る神川の清き流れにあります。人を守る、土地を守るのは戦だけではありません。治山治水が生活の要であり、当社の宝物等から窺えることは、真田氏は土地と人を大切にされた殿様であり、だからこそ領民は真田氏を必死に守り抜きました。

神川を戦に利用する事ができたのも、常に自然と共に暮し、治山治水を上手に行っていた証拠であり、明治まで山家神社に上田藩主の参拝が続き、社殿の造営寄進が繰り返されたことは、生命の源である神川水系一帯の自然の神と、その土地に暮らす人々が、相互に守り護られて生活していた証であります。

真田氏が戦勝祈願をすれば山家神社よりほかにありません。しかし当社にその伝承はありません。それは真田氏が戦に勝つことよりも、被害を最小に領民を無事に帰すことを祈っていたのではないかと、地元真田でしか感じる事のできないことです。

真田神社を守ろう

江戸の長い時代、上田を始めこの真田の里は松平公に治められていました。その歴代上田藩主に敬意を表した上で、明治十七年、ようやく真田家十代幸民公(松代藩主)及び県知事に認可を受け、この真田家発祥の地に念願の真田神社が創立されます。

真田本家より御神璽を奉斎、旧家臣より多くの宝物が奉納され、広く大阪からも寄付を受けた記録が残されていますが、残念ながら今に伝わることはありませんでした。

↓古図
当時は独立した立派な社でありました。時代の流れで維持管理に適正を欠き大正八年山家神社境内へと遷されます。昭和二十五年には旧長村の戦没者の御霊が合祀されます。この村には新たに慰霊殿を建てる余力なきため、真田公と同じくお祀りされる事となりました。

昭和二十八年、上田城に鎮座する松平神社が上田神社と改称、その十年後になんと真田神社と名を改め、純粋な信仰のもとに祀られた山深き里、真田氏が愛した真田郷に鎮座する真田神社は、いつしか人々の記憶から忘れられていくこととなります。

本来唯一の真田神社、御祭神は幸隆公より昌幸公信幸公信繁(幸村)公をお祀りしています。真田の至誠はここににあります。↓神社創立文書は全て残っています

